

指静脈認証システム 取扱説明書

AUthentiGate は株式会社日立ソリューションズの登録商標です。
その他の社名、または商品名等は各社の登録商標または商標です。

ライセンスについては、別冊の「ライセンスについて」に記載しています。

ご注意

- ① 本書の内容の一部または全部を無断で複製・転載・改変することはおやめください。
ただし、本機をご利用いただくために本書を参照する場合に限り、本書を複製することができます。
- ② 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- ③ 本書に、ご不明な点、誤り、記載もれ、乱丁、落丁などがありましたら弊社までご連絡ください。
- ④ 本書に記載されていない方法で機械を操作しないでください。思わぬ故障や事故の原因となることがあります。万一故障などが発生した場合は、責任を負いかねることがありますので、ご了承ください。
- ⑤ 本製品は、日本国内において使用することを目的に製造されています。諸外国では電源仕様などが異なるため使用できません。
また、安全法規制（電波規制や材料規制など）は国によってそれぞれ異なります。本製品および、関連消耗品をこれらの規制に違反して諸外国へ持ち込むと、罰則が科せられることがあります。

Xerox、Xerox ロゴ、Fuji Xerox ロゴ、および CentreWare は、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。
ApeosWare は、富士ゼロックス株式会社の登録商標または商標です。



目次

目次.....	2
1 お使いいただく前に	
はじめに	4
本書の使い方.....	5
本書の構成.....	5
本書の表記.....	5
2 概要	
指静脈認証システムとは.....	8
各部の名称と働き	9
3 設定	
複合機の設定.....	12
プラグインの設定	13
4 指静脈認証の手順	
ID・静脈認証.....	20
グループ・静脈認証	22
ID・パスワード認証	24
指静脈登録・更新	27
バージョン情報の確認	30
5 トラブル対処	
トラブル対処.....	32
エラーコード一覧.....	33
6 付録	
注意制限について	40

1

お使いいただく前に

この章では、本書の使い方について説明します。

はじめに

このたびは指静脈認証システムをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本書は、指静脈認証システムをはじめてご使用になる方を対象として、指静脈認証システムの操作方法および使用上の注意事項を記載しています。指静脈認証システムの性能を十分に発揮させ、効果的にご利用いただくために、ご使用になる前に必ず本書を最後までお読みください。

お使いの複合機の機種によっては、使用できる機能が本マニュアルの記載とは異なる場合があります。

なお、本書の内容は、お使いのパーソナルコンピュータの環境や、ネットワーク環境の基本的な知識や操作方法を習得されていることを前提に説明しています。お使いのパーソナルコンピュータの環境や、ネットワーク環境の基本的な知識や操作方法については、パーソナルコンピュータ、オペレーティングシステム、ネットワークシステムなどに付属の説明書をお読みください。

本書は、読み終わった後も必ず保管してください。本システムをご使用中に、操作でわからないことや不具合が出たときに読み直してご活用いただけます。

富士ゼロックス株式会社

本書の使い方

本書は、指静脈認証システムの操作方法などについて記載しています。

本書の構成

本書は、次の構成になっています。

■1 お使いいただく前に

本書の使い方について説明しています。

■2 概要

指静脈認証システムの概要、各部の名称と働きについて説明しています。

■3 設定

指静脈認証システムを使用するための設定について説明しています。

■4 指静脈認証の手順

指静脈認証の手順について説明しています。

■5 トラブル対処

トラブル対処について説明しています。

■6 付録

注意制限について説明しています。

本書の表記

- 本書に記載している画面や機械のイラストは、各種オプション製品が装着された状態のものです。使用している機械の構成によっては、表示されない項目や使用できない機能があります。
- 本文中では、説明する内容によって、次のマークを使用しています。

注記

- 注意すべき事項を記述しています。必ずお読みください。

補足

- 補足事項を記述しています。

参照

- 参照先を記述しています。

- 本文中では、次の記号を使用しています。

『 』
[]

- 参照するマニュアルを表しています。
- 機械のタッチパネルディスプレイに表示されるボタンやメニューなどの名称を表しています。
- コンピューターの画面に表示されるメニューやウィンドウなどの名称と、それらに表示されるボタンやメニューなどの名称を表しています。
- コンピューターのキーボード上のキーを表しています。

< > キー

- >
- 操作パネルで順に項目を選択する手順を、省略して表しています。
例：「[仕様設定 / 登録] > [登録 / 変更] > [ボックス登録] を選択します。」は、「[仕様設定 / 登録] を押して、[登録 / 変更] を押したあと、[ボックス登録] を選択します。」という手順を省略して記載したものです。
 - コンピューターで順に項目をクリックする手順を、省略して表しています。
例：「[スタート] > [検索] > [他のコンピュータ] で検索します。」は、「[スタート] ボタンをクリックして、[検索]、[他のコンピュータ] を順にクリックして検索します。」という手順を省略して記載したものです。
 - 参照先は、次のように表しています。
例：「『管理者ガイド』の「仕様設定」 > 「共通設定」 > 「音の設定」を参照してください。」は、管理者ガイドの「仕様設定」内の、「共通設定」での「音の設定」を参照することを表しています。

2

概要

この章では、指静脈認証システムの概要、各部の名称と働きについて説明します。

指静脈認証システムとは

指静脈認証システムとは、複合機に接続された指静脈リーダーで生体認証を行い、個人を識別するシステムです。なりすましによる不正ログイン防止や、IDカード紛失時にログインできないなどのトラブル防止に有効です。

注記

- 生体認証には、本人であるにも関わらず認証に失敗する本人拒否と、他人として認証に成功してしまう他人受け入れの可能性があります。

補足

- ApeosWare Management Suit と連携して、利用権限を取得できます。

指静脈認証システムによる認証には、次の種類があります。

■ID・静脈認証

ID・静脈認証は、ユーザーがユーザー ID を入力後、複合機に接続された指静脈リーダーに指を挿入して行う指静脈認証方式です。

ユーザー ID と指静脈を 1 対 1 で認証するため、誤認証を防止することが可能になり、認証スピードも早まります。

参照

- 詳しくは、「ID・静脈認証」(P.20) を参照してください。

■グループ・静脈認証

グループ・静脈認証は、ユーザーが所属グループを選択後、複合機に接続された指静脈リーダーに指を挿入して行う指静脈認証方式です。

事前に設定されたグループの中から検索をするため、ID 入力の必要がありません。

参照

- 詳しくは、「グループ・静脈認証」(P.22) を参照してください。

■ID・パスワード認証

ID・パスワード認証は、指静脈認証に対する代替手段として、ユーザー ID とパスワードを入力して行う認証方式です。

AUthentiGate サーバーが使えないときなどの代替手段になります。指は使いません。

参照

- 詳しくは、「ID・パスワード認証」(P.24) を参照してください。

指静脈認証を行うためには、指静脈情報の登録が必要です。

■指静脈登録

ユーザー ID とパスワードを入力したあと、指静脈情報を登録する指を指静脈リーダーに挿入することにより、指静脈の情報が登録されます。

事前に AUthentiGate サーバーにユーザーを登録しておく必要があります。

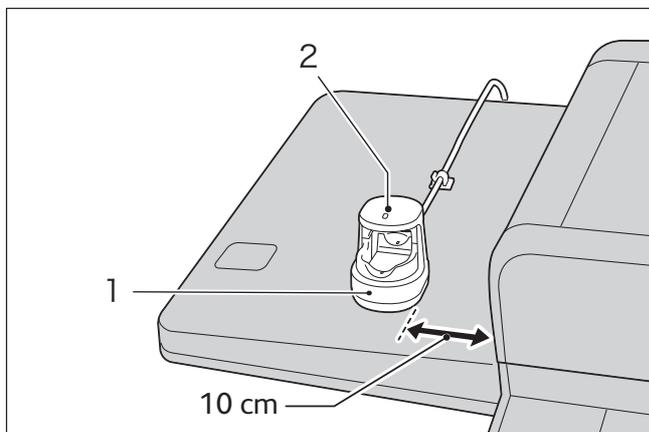
参照

- 詳しくは、「指静脈登録・更新」(P.27) を参照してください。

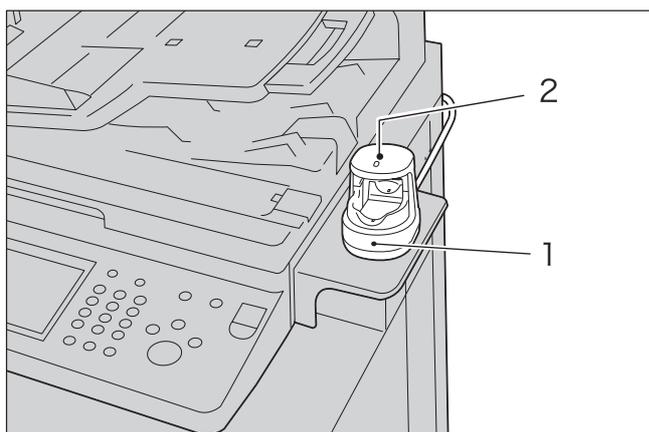
各部の名称と働き

指静脈認証システムの各部の名称と働きについて説明します。

ウイングテーブル（オプション）に取り付けた場合



関連商品取り付けキット B（オプション）に取り付けた場合



番号	名称	働き
1	指静脈リーダー	指内部の静脈パターンを撮影し、撮影した画像を処理します。ウイングテーブル（オプション）の上に置いて使用します。お使いの複合機の本体から 8cm 以上離してください。
2	状態表示 LED	システムが起動（複合機の電源を ON）すると、緑色に点灯します。指静脈の撮影待ちおよび撮影中は緑色に点滅します。点滅中に、指を挿入してください。指静脈の読み取りが成功すると、緑色に点灯します。失敗すると、赤色に点灯します。

3

設定

この章では、指静脈認証システムを使用するための設定について説明します。

複合機の設定

指静脈認証システムの機能を使用するために、お使いの複合機の [仕様設定 / 登録] 画面で以下の項目が正しく設定されているか確認してください。

■カスタム認証

[仕様設定] > [認証 / セキュリティ設定] > [認証の設定] > [認証方式の設定] を [カスタム認証] に設定している。

■アクセス制御

[仕様設定] > [認証 / セキュリティ設定] > [認証の設定] > [アクセス制御] > [デバイスへのアクセス] を [制限する] に設定している。

■組み込みプラグイン機能

[仕様設定] > [共通設定] > [プラグイン設定] で、[組み込みプラグイン機能] を [有効] に設定している。

参照

- 詳しくは、『管理者ガイド』の「仕様設定」を参照してください。

プラグインの設定

指静脈認証システムの機能を使用するには、プラグインの設定が必要です。

補足

- AUthentiGate の設定内容については、AUthentiGate のサポート担当者にお問い合わせください。

- 1 ネットワークに接続されたコンピュータで、Web ブラウザーを起動します。
- 2 Web ブラウザーのアドレス入力欄にお使いの機械の IP アドレスを入力し、<Enter> キーを押します。

補足

- CentreWare Internet Services への接続時、または操作中にユーザー名とパスワードの入力を求める画面が表示された場合は、機械管理者 ID とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

- 3 [プロパティ] > [セキュリティ] > [プラグイン/カスタムサービス設定] > [組み込みプラグイン一覧] を選択します。

補足

- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。



- 4 お使いのプラグインを選択し、[設定] をクリックします。
- 5 [指静脈認証システム] で次の項目を設定し、[新しい設定を適用] をクリックします。

■ AAuthentiGate 設定

指静脈認証情報を管理する AAuthentiGate サーバーに接続する際に必要な情報の設定を行います。

設定項目	設定内容
IP アドレス (ホスト名)	AAuthentiGate サーバーの IP アドレス、またはホスト名を指定します。
ポート番号	AAuthentiGate サーバーのポート番号を指定します。
接続タイムアウト	AAuthentiGate サーバーに対する接続タイムアウトを秒単位で指定します。0 ~ 60 秒の範囲で指定します。0 秒を指定した場合はタイムアウトしません。
アカウントグループ名	静脈認証を行う場合に使用するアカウントグループ名を指定します。 アカウントグループ名は、AAuthentiGate サーバーに設定した値と一致させる必要があります。
SSL 通信	AAuthentiGate サーバーと複合機の通信に SSL を使用するかを指定します。
証明書の検証	AAuthentiGate サーバーとの通信で SSL を使用する際に、AAuthentiGate サーバーの証明書を検証するかを指定します。
基本認証	AAuthentiGate サーバーの IIS が基本認証を使用しているかを指定します。
基本認証ユーザー名	AAuthentiGate サーバーの IIS が基本認証を使用している場合、認証に使用するユーザー名を指定します。
基本認証パスワード	AAuthentiGate サーバーの IIS が基本認証を使用している場合、認証に使用するパスワードを指定します。
基本認証パスワード再入力	基本認証パスワードを再入力します。

■指静脈リーダー設定

指静脈リーダーの動作に関する設定を行います。



設定項目	設定内容
認証時のブザー	指静脈読み込み時に指静脈リーダーのブザーを鳴らすかを指定します。

■認証設定

ユーザーの認証情報の取得先に関する設定を行います。



設定項目	設定内容
代替認証サーバー	ActiveDirectory (LDAP) または ApeosWare Management Suit から、代替認証サーバーを選択します。
利用権限の取得	ApeosWare Management Suit から利用権限情報を取得するかを設定します。

■複合機上の表示設定

複合機へログインする時に表示されるログイン画面に関する設定を行います。

注記

- [複合機上の表示設定] を設定する前に、[AUthentiGate 設定] の設定を完了してください。

設定項目	設定内容
画面表示の初期設定	複合機へログインする際に表示されるログイン画面を選択します。 初期設定は、グループ・静脈認証です。
グループ名の表示	グループ・静脈認証のログイン画面に表示されるグループを8個まで登録できます。[参照]をクリックして、リストからグループを選択します。グループ名はテキスト入力でも設定できます。表示名に入力がない場合はグループ名がパネル上に表示されます。 補足 • 別名表示を入力した場合は、その文字列が複合機のパネル上に表示されます。

■エクスポート / インポート

複数の複合機をお使いの場合、指静脈認証システムの設定をエクスポート / インポートできます。



設定項目	設定内容
設定ファイルを保存する	[エクスポート] をクリックして、設定ファイルをエクスポートします。
設定ファイルを読み込む	設定ファイルをインポートします。[参照] をクリックしてインポートするファイルを指定します。[インポート] をクリックして、ファイルをインポートします。

- 6 CentreWare Internet Services の [状態] タブを選択し、[再起動] を押します。または、複合機本体の電源をいったん切って再度入れます。機械が再起動し、設定した値が反映されます。

4

指静脈認証の手順

この章では、指静脈認証の手順について説明します。

ID・静脈認証

ユーザーがユーザー ID を入力して個人を特定した上で、複合機に接続された指静脈リーダーに指を挿入する認証について説明します。

1 [ユーザー ID] を選択します。

補足

- [ID・静脈認証] 画面が表示されていない場合は、[ID・静脈認証] を押して表示させます。

■グループ・静脈認証

[グループ・静脈認証] 画面を表示します。

参照

- 詳しくは、「グループ・静脈認証」(P.22) を参照してください。

■ID・パスワード認証

[ID・パスワード認証] 画面を表示します。

参照

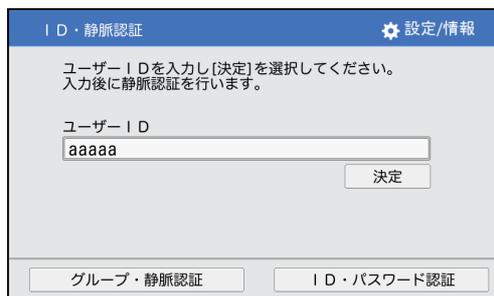
- 詳しくは、「ID・パスワード認証」(P.24) を参照してください。

2 <数字> ボタン、または表示されるキーボードを使って、ユーザー ID を入力し、[決定] を押します。

補足

- ここで入力するユーザー ID は、AUthentiGate で設定したアカウント名になります。

3 [決定]を押します。



4 指静脈リーダーに、認証したい指を挿入します。



認証されると、メニュー画面が表示されます。
画面右上でユーザー名が確認できます。



補足

- 認証されなかった場合は、"指情報を認証できませんでした"というメッセージが表示されます。
[戻る] ボタンを押して、[ID・静脈認証] 画面に戻ります。

参照

- エラーについては、「トラブル対処」(P.31)を参照してください。

グループ・静脈認証

ユーザーが所属グループを選択後、複合機に接続された指静脈リーダーに指を挿入する認証について説明します。

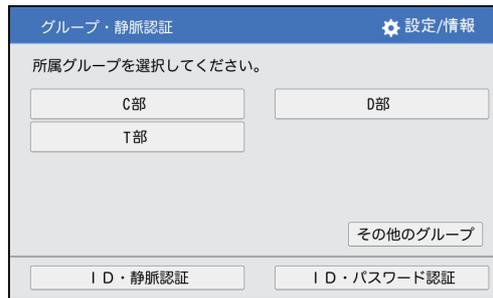
1 所属グループを選択します。

補足

- [グループ・静脈認証]画面が表示されていない場合は、[グループ・静脈認証]を押して表示させます。

補足

- ここに表示されるグループは、事前にプラグインの[複合機上の表示設定]画面で設定できます。

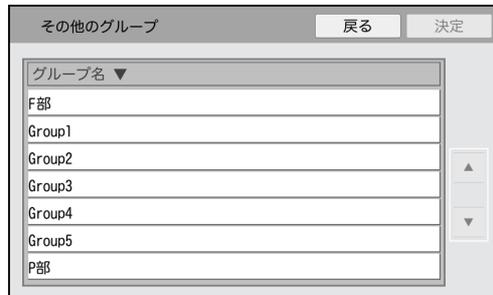


■その他のグループ

[その他のグループ] 選択画面を表示します。

補足

- 所属グループのボタンが表示されていない場合にグループ・静脈認証を行いたいときに利用します。



■ID・静脈認証

[ID・静脈認証] 画面を表示します。

参照

- 詳しくは、「ID・静脈認証」(P.20) を参照してください。

■ID・パスワード認証

[ID・パスワード認証] 画面を表示します。

参照

- 詳しくは、「ID・パスワード認証」(P.24) を参照してください。

2 指静脈リーダーに認証したい指を挿入します。

補足

- [取り消し] を選択すると、起動中の画面に戻ります。



認証されると、メニュー画面が表示されます。
画面右上でユーザー名が確認できます。



補足

- 認証されなかった場合は、"指情報を認証できませんでした" というメッセージが表示されます。
[戻る] ボタンを押して、[グループ・静脈認証] 画面に戻ります。

参照

- エラーについては、「トラブル対処」(P.31) を参照してください。

ID・パスワード認証

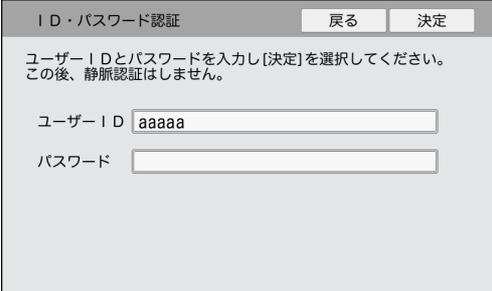
ユーザー ID とパスワードを入力後、パスワード情報を認証します。
指静脈の認証はしません。

- 1 [ID・パスワード認証] を選択します。

- 2 [ユーザー ID] を選択します。

- 3 <数字> ボタン、または表示されるキーボードを使って、ユーザー ID を入力し、[決定] を押します。

4 [パスワード]を選択します。

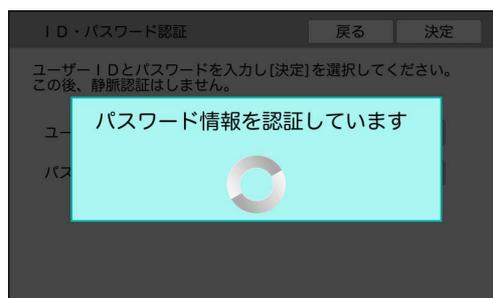
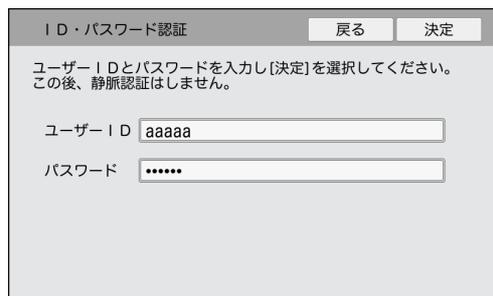


The screenshot shows a dialog box titled "ID・パスワード認証" (ID/Password Authentication). It has two buttons at the top: "戻る" (Back) and "決定" (OK). The main text reads: "ユーザーIDとパスワードを入力し[決定]を選択してください。この後、静脈認証はしません。" (Enter your user ID and password, then click [OK]. After this, vein authentication is not performed). There are two input fields: "ユーザーID" (User ID) containing "aaaaa" and "パスワード" (Password) which is empty.

5 <数字> ボタン、または表示されるキーボードを使って、パスワードを入力し、[決定]を押します。



6 「決定」を押します。



認証されると、メニュー画面が表示されます。
画面右上でユーザー名が確認できます。



補足

- 認証されなかった場合は、"指情報を認証できませんでした"というメッセージが表示されます。
[戻る]ボタンを押して、[ID・パスワード認証]画面に戻ります。

参照

- エラーについては、「トラブル対処」(P.31)を参照してください。

指静脈登録・更新

ユーザー ID とパスワードを入力した後、登録する指を選択して指を挿入することにより、指静脈の情報が指静脈認証システムに登録されます。

補足

- 登録した指を怪我した場合などに備えて、複数の指の指静脈情報を登録することもできます。
- 登録した指静脈情報を削除する場合、AuthentiGate を使用して削除することができます。

1 [設定 / 情報] を押します。

グループ・静脈認証 設定/情報

所属グループを選択してください。

C部 D部

T部

その他のグループ

ID・静脈認証 ID・パスワード認証

2 [指情報の登録 / 更新] を選択します。

設定/情報 戻る

指スキャンし情報を登録/更新します

指情報の登録/更新

認証装置の情報
ファームウェアバージョン
シリアル番号

3 [ユーザー ID] を選択します。

指情報の登録/更新 取り消し 決定

指情報の登録/更新をするため、[ユーザー ID]と[パスワード]を入力し、[決定]を選択してください。

ユーザー ID

パスワード

- 4 <数字> ボタン、または表示されるキーボードを使って、ユーザー ID を入力し、[決定] を押します。



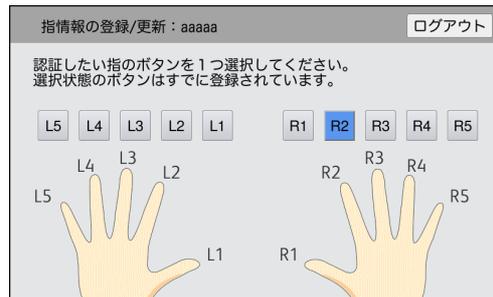
- 5 [パスワード] を選択します。

- 6 <数字> ボタン、または表示されるキーボードを使って、パスワードを入力し、[決定] を押します。

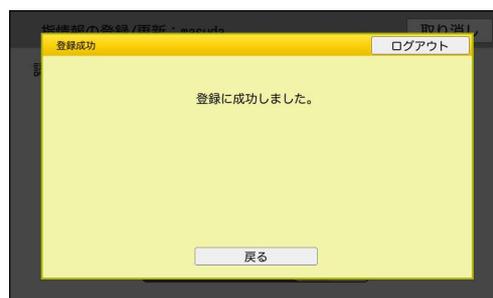
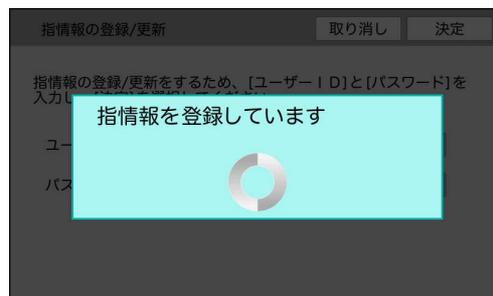


- 7 [決定] を押します。

8 登録したい指のボタンをひとつ選択します。



9 指認証リーダーに、登録したい指を挿入します。



10 ほかの指も登録する場合は、上記の手順をくり返します。

補足

- 認証されなかった場合は、"指情報を認証できませんでした"というメッセージが表示されます。
[戻る]ボタンを押して、最初の画面に戻ります。

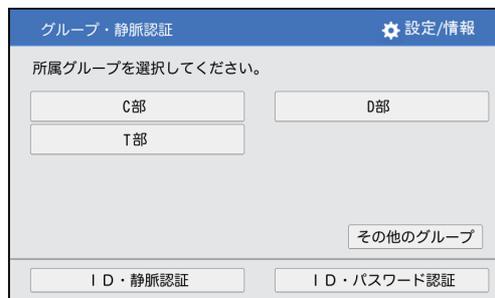
参照

- エラーについては、トラブル対処 (P.32) を参照してください。

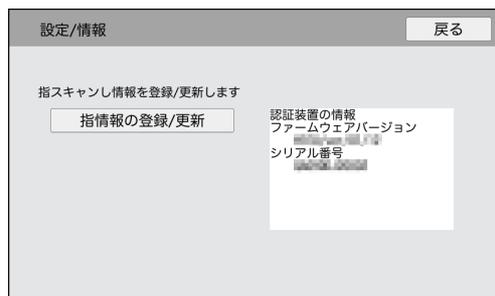
バージョン情報の確認

指静脈認証システムのバージョンを確認する方法を説明します。

- 1 [設定 / 情報] を押します。



- 2 指静脈認証システムのバージョンを確認します。



5

トラブル対処

この章では、トラブルが発生した場合の対処方法について説明します。

トラブル対処

指静脈認証システムに何らかのトラブルが発生した場合の処置について説明します。

症状	原因	処置
指情報を登録できない、 または指認識できない	指静脈リーダーに指が 正しく挿入されていま すか？	以下のとおり処置してください。 <ol style="list-style-type: none"> 指が止まる位置まで、挿入しなおします。 指情報を読み込んでいる間は、指を動かさないようにします。 補足 <ul style="list-style-type: none"> 指情報の読み込みが終わると、状態表示 LED が点灯します。 参照 <ul style="list-style-type: none"> 状態表示 LED については、「各部の名称と働き」(P.9) を参照してください。
	手袋などで指が覆われ ていませんか？	指を覆っているものを外して、指を挿入しなおします。 補足 <ul style="list-style-type: none"> 予備として複数の指を登録しておくこともできます。
	指静脈の鮮明度が足り なかったり、類似の指情 報が登録されていませ んか？	指情報を更新してください。指の先端を装置のくぼみに合わせ、指を押し付けないように力を抜く感じで置くと成功しやすくなります。

エラーコード一覧

次の表でエラーコードを参照して、処置してください。

エラーコード	原因 / 処置
1000 1001 1002 1003 1004 1005 1006 1007 1008 1009 1010 1099 1300	<p>【原因】 ソフトウェアに異常が発生しました。</p> <p>【処置】 複合機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じエラーコードが表示された場合は、複合機の電源および主電源を切り、もう一度主電源および電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。</p>
1301	<p>【原因】 メモリーが不足しています。</p> <p>【処置】 複合機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じエラーコードが表示された場合は、複合機の電源および主電源を切り、もう一度主電源および電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。</p>
1302 1303 1304 1305 1306 1307 1308 1399 1400 1401 2000	<p>【原因】 ソフトウェアに異常が発生しました。</p> <p>【処置】 複合機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じエラーコードが表示された場合は、複合機の電源および主電源を切り、もう一度主電源および電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。</p>
2001	<p>【原因】 メモリーが不足しています。</p> <p>【処置】 複合機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じエラーコードが表示された場合は、複合機の電源および主電源を切り、もう一度主電源および電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。</p>
2002 2003 2004	<p>【原因】 ソフトウェアに異常が発生しました。</p> <p>【処置】 複合機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じエラーコードが表示された場合は、複合機の電源および主電源を切り、もう一度主電源および電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。</p>

エラーコード	原因 / 処置
2100 2101	<p>【原因】 認証サーバー（ApeosWare Authentication Management）と通信できません。</p> <p>【処置】 ネットワーク環境の改善または通信設定の変更後、再実行してください。</p>
2102	<p>【原因】 認証サーバー（ApeosWare Authentication Management）からの通信が一定時間内に完了しませんでした。</p> <p>【処置】 ネットワーク環境の改善または通信設定の変更後、再実行してください。</p>
2103	<p>【原因】 AUthentiGate と通信できませんでした。</p> <p>【処置】 ネットワーク環境の改善または通信設定の変更後、再実行してください。</p>
2106 2107 2108	<p>【原因】 AUthentiGate から正常なデータが取得できませんでした。</p> <p>【処置】 AUthentiGate の状態を改善し、再実行してください。</p>
2109	<p>【原因】 AUthentiGate からの通信が一定時間内に完了しませんでした。</p> <p>【処置】 AUthentiGate の状態を改善し、再実行してください。</p>
2121	<p>【原因】 登録した指情報と類似した情報が AUthentiGate に先に登録されています。</p> <p>【処置】 指情報を再登録してください。状態が改善されないときは、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。</p>
2122	<p>【原因】 登録した指情報の鮮明度が不足しています。</p> <p>【処置】 指情報を再登録してください。指の先端を装置のくぼみに合わせ、指を押し付けないように力を抜く感じで置くと成功しやすくなります。状態が改善されないときは、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。</p>
2123	<p>【原因】 AUthentiGate と通信できませんでした。</p> <p>【処置】 AUthentiGate の状態を改善し、再実行してください。</p>
2124	<p>【原因】 指静脈情報の照合に失敗しました。</p> <p>【処置】 一度、指を装置から離し、もう一度、正しい位置に置き直してから実行してください。指の先端を装置のくぼみに合わせ、指を押し付けないように力を抜く感じで置くと認証されやすくなります。</p>
2125	<p>【原因】 AUthentiGate にアカウントが設定されていない状態で指情報を登録しようとしてしました。</p> <p>【処置】 AUthentiGate にアカウントを設定し、再実行してください。</p>
2131	<p>【原因】 AUthentiGate にユーザーが設定されていない状態で指情報を登録しようとしてしました。</p> <p>【処置】 AUthentiGate にユーザーを設定し、再実行してください。</p>
2132	<p>【原因】 AUthentiGate に登録されたアカウントに複数のユーザーが設定されている状態で、指情報を登録しようとしてしました。</p> <p>【処置】 管理者が操作する管理ツール（PC）から指情報を登録してください。</p>

エラーコード	原因 / 処置
2133	<p>【原因】 AAuthentiGate の設定が正しくないため（上限設定不備）、グループが取得できませんでした。</p> <p>【処置】 AAuthentiGate の状態を改善し、再実行してください。</p>
2151	<p>【原因】 認証サーバー（LDAP）への認証情報が正しくありません。</p> <p>【処置】 正しい入力を行い、再実行してください。</p>
2152	<p>【原因】 認証サーバー（LDAP）と通信できません。</p> <p>【処置】 ネットワーク環境の改善または通信設定の変更後、再実行してください。</p>
2153	<p>【原因】 認証サーバー（LDAP）から正常なデータが取得できませんでした。</p> <p>【処置】 認証サーバー（LDAP）の状態を改善し、再実行してください。</p>
2154	<p>【原因】 ソフトウェアに異常が発生しました。</p> <p>【処置】 複合機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じエラーコードが表示された場合は、複合機の電源および主電源を切り、もう一度主電源および電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。</p>
2200	<p>【原因】 認証サーバー（ApeosWare Authentication Management）から正常なデータが取得できませんでした。</p> <p>【処置】 認証サーバー（ApeosWare Authentication Management）から正常なデータが取得できませんでした。</p>
2300	<p>【原因】 AAuthentiGate のアカウント名が不正な値（禁則文字、最大長超え）状態でグループ・静脈認証が実行されました。</p> <p>【処置】 AAuthentiGate のアカウント情報を修正し、再実行してください。</p>
2400	<p>【原因】 認証サーバー（ApeosWare Authentication Management）にユーザーが登録されていない状態で認証が実行されました。</p> <p>【処置】 認証情報を入れ直してから再実行してください。再度同じエラーが表示されるので管理者に問い合わせてください。管理者は、ユーザーを登録してから、再実行を指示してください。</p>
2402	<p>【原因】 認証サーバー（ApeosWare Authentication Management）への認証情報が正しくありません。</p> <p>【処置】 認証情報を入れ直してから再実行してください。</p>
2403	<p>【原因】 認証サーバー（ApeosWare Authentication Management）ですべてのサービスの利用権限がありません。</p> <p>【処置】 権限が必要な場合は認証サーバー（ApeosWare Authentication Management）で設定変更してください。</p>
2602 2603	<p>【原因】 ソフトウェアに異常が発生しました。</p> <p>【処置】 複合機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じエラーコードが表示された場合は、複合機の電源および主電源を切り、もう一度主電源および電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。</p>

エラーコード	原因 / 処置
2604	<p>【原因】 管理者が操作する管理ツール (PC) からの設定及び設定ファイルからのインポート時に不正な設定値 (禁則文字、最大長越え) が入力されました。</p> <p>【処置】 正しい入力を行ない、再実行してください。</p>
2700	<p>【原因】 指置き待ち状態で撮影が一定時間内に完了しませんでした。</p> <p>【処置】 再実行してください。指の先端を装置のくぼみに合わせ、指を押し付けないように力を抜く感じで置いてください。</p>
2701	<p>【原因】 指静脈リーダーが接続されていません。</p> <p>【処置】 指静脈リーダーを接続してください。</p>
2702 2703 2704 2705	<p>【原因】 指静脈リーダーでエラーが発生しました。</p> <p>【処置】 複合機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じエラーコードが表示された場合は、複合機の電源および主電源を切り、もう一度主電源および電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。</p>
2801	<p>【原因】 ユーザー ID が入力されていません。</p> <p>【処置】 ユーザー ID を入力し、再実行してください。</p>
2802	<p>【原因】 ユーザー ID に禁則文字が入っています。</p> <p>【処置】 ユーザー ID を正しく入力し、再実行してください。</p>
2803	<p>【原因】 ユーザー ID が最大長を超えて入力されています。</p> <p>【処置】 ユーザー ID を正しく入力し、再実行してください。</p>
2805	<p>【原因】 パスワードが最大長を超えて入力されています。</p> <p>【処置】 パスワードを正しく入力し、再実行してください。</p>
2901	<p>【原因】 表示するユーザーグループが存在しません。</p> <p>【処置】 使用できるすべてのグループは既にボタン登録されているので [その他のグループ] は利用しないでください。</p>
3011	<p>【原因】 管理者が操作する管理ツール (PC) で、ソフトウェアに異常が発生しました。</p> <p>【処置】 複合機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じエラーコードが表示された場合は、複合機の電源および主電源を切り、もう一度主電源および電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。</p>
3021 3022	<p>【原因】 管理者が操作する管理ツール (PC) で複合機との通信エラーが発生しました。</p> <p>【処置】 ネットワーク環境の改善後、再実行してください。</p>

エラーコード	原因 / 処置
3101	<p>【原因】 管理者が操作する管理ツール (PC) でソフトウェアに異常が発生しました。</p> <p>【処置】 複合機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じエラーコードが表示された場合は、複合機の電源および主電源を切り、もう一度主電源および電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。</p>
3102	<p>【原因】 管理者が操作する管理ツール (PC) からの設定及び設定ファイルからのインポート時に不正な設定値 (禁則文字、最大長越え) が入力されました。</p> <p>【処置】 正しい入力を行い、再実行してください。</p>
3111	<p>【原因】 管理者が操作する管理ツール (PC) でソフトウェアに異常が発生しました。</p> <p>【処置】 複合機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じエラーコードが表示された場合は、複合機の電源および主電源を切り、もう一度主電源および電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。</p>
3151	<p>【原因】 管理者が操作する管理ツール (PC) で AAuthentiGate と通信できないか、認証に失敗しました。</p> <p>【処置】 ネットワーク環境の改善または通信設定の変更後、再実行してください。</p>
3152	<p>【原因】 管理者が操作する管理ツール (PC) で AAuthentiGate からグループを取得できませんでした。</p> <p>【処置】 必要に応じて、AuthentiGate でグループを追加してから、再実行してください。</p>
3201	<p>【原因】 管理者が操作する管理ツール (PC) で不正なファイルをインポートしました。</p> <p>【処置】 正しいファイルを指定して再実行してください。</p>
3202	<p>【原因】 管理者が操作する管理ツール (PC) でソフトウェアに異常が発生しました。</p> <p>【処置】 複合機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じエラーコードが表示された場合は、複合機の電源および主電源を切り、もう一度主電源および電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。</p>
3203	<p>【原因】 管理者が操作する管理ツール (PC) でバージョン不正なファイルをインポートしました。</p> <p>【処置】 正しいファイルを指定して再実行してください。または、プラグインをアップデートしてください。</p>

エラーコード	原因 / 処置
3301	<p>【原因】 管理者が操作する管理ツール (PC) でソフトウェアに異常が発生しました。</p> <p>【処置】 複合機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じエラーコードが表示された場合は、複合機の電源および主電源を切り、もう一度主電源および電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。</p>
4001	<p>【原因】 通信エラーが起きました。</p> <p>【処置】 複合機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じエラーコードが表示された場合は、複合機の電源および主電源を切り、もう一度主電源および電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。</p>
4002	<p>【原因】 プラグインが正常にインストールされていません。</p> <p>【処置】 複合機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じエラーコードが表示された場合は、複合機の電源および主電源を切り、もう一度主電源および電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。</p>
4004 4005 4006 4007 4008 4009 4010	<p>【原因】 ソフトウェアに異常が発生しました。</p> <p>【処置】 複合機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。ふたたび同じエラーコードが表示された場合は、複合機の電源および主電源を切り、もう一度主電源および電源を入れてください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカスタマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。</p>
4011	<p>【原因】 ID・静脈認証でユーザー ID に禁則文字や文字数に違反がありました。</p> <p>【処置】 正しいユーザー ID を入力し、再実行してください。</p>

6

付録

この章では、注意制限について説明します。

注意制限について

指静脈認証システムに関する注意および制限事項について説明します。

- 本システムでは ApeosWare Management Suite の 出力制限機能で設定した上限値を利用できません。
- AUthentiGate の設定で、1 つのアカウントに対して複数のユーザーが登録されているときは、本システムで指静脈の登録 / 更新はできません。別途、AUthentiGate の管理アプリケーションで登録 / 更新してください。
- AUthentiGate の設定で、アカウント名が半角英数字以外のときは、本システムは利用できません。
- AUthentiGate の設定内容については、AUthentiGate のサポート担当者にお問い合わせください。
- ネットワークスキャナーユーティリティ 3 を利用する場合は、機器の設定、または CentreWare Internet Services で、[ボックス取り出しの認証] を無効にしてください。
- 自動リセットをオフにして運用した場合、ユーザーがログアウト（認証解除）操作を忘れると当該ユーザーがログインしたままの状態になってしまいます。自動リセットをオンにしてください。
- お使いの機種によっては、親展ボックスに蓄積された文書をネットワークスキャナーユーティリティ 3、DocuWorks、ApeosWare Flow Management などの WebDAV を使って取り出すことはできません。スキャン機能をご利用される場合は、スキャナー（PC 保存）またはスキャナー（メール送信）を使ってください。また、ペーパーレスファクス機能をご利用される場合は、ジョブフローを使ってください。

指静脈認証システム取扱説明書

著作者 - 富士ゼロックス株式会社
発行者 - 富士ゼロックス株式会社

発行年月 - 2017年 10月 第1版

(帳票番号:ME7810J1-2)